

【院長挨拶】

医療を行う上で医療安全と感染防止は大きな二つの柱です。当院にも医療安全管理室と感染防止対策室が設けられています。医療は人が行なう行為であり、残念ながら絶対とか完璧ということはありません。それが「医療の結果の『不確実性』』と言われる所以です。日々の診療行為を振り返る事例検証はわれわれに気付きを与えてくれます。院内で起きる様々な事例・事案について、その情報が報告・共有され、迅速に検証する流れがここ2年ほどで出来つつあります。これを組織風土として高めていきましょう。

一方感染の防止については、目下3年目に入ったCOVID-19感染症に関して、われわれは時には痛い目にも遭いながら紆余曲折を経て様々な経験を積み重ねてきています。さらに結核や耐性菌対策も忘れてはなりません。日々のラウンド、振り返りが大切なことは言うまでもありません。そして院内はもとより、施設間あるいは地域全体を眺め、相互にチェックを行うことで見逃しを防ぎ、常にブラッシュアップする姿勢が必要です。まだまだ改善すべきところは少なくありませんが、日々の積み重ねを大切にしていきたいと考えています。



寺柿 政和

【外科 KARL STORZ IMAGE1 S「Rubina カメラシステム」導入】

当院外科においてKARL STORZ社の新しい内視鏡システムを導入いたしました。今回は簡単にこのカメラシステムの機能を紹介させていただきます。

本システムの特徴として、4Kの高精細フルカラー映像の表示が装備されています。これにより臓器の細部が識別できるようになりました。また従来の内視鏡画像では深さの表現が不十分で、内視鏡手術時、3次元空間における複雑な操作（縫合など）を行うことが難しかったのですが、3D視覚化機能を使用することによりより安全で繊細な低侵襲手術が可能となりました。もう一つユニークな機能としてICG（インドシアニングリーン）を用いた蛍光イメージング機能の利用が可能となった点です。ICG蛍光イメージング機能を利用すると組織血流、胆管の解剖学的構造、またリンパ系が迅速に表示することが出来ます。これは、消化管吻合が行われる場合の吻合部血流評価においても非常に有用な機能です。また、ICGを腫瘍周辺部に注射することにより、リンパ経路、リンパ節を組織下であっても迅速かつリアルタイムに可視化できるため、リンパ節廓清のクオリティーも向上することとなります。

貴院で受診されていらっしゃる患者様で胃、大腸癌などの症例がございましたら是非ご紹介下さい。



外科・部長 清田 誠志

片頭痛は一般的によく聞かれる病名ですが、その頭痛は繰り返し起こり中等度～高度の痛みを伴います。中には、強い頭痛の為に仕事や余暇などの日常生活を過ごせないほど悩まれている方もおられます。

そうした中、昨年から片頭痛にエムガルティという新しい皮下注射薬が登場しました。エムガルティはCGRPという物質の働きを抑える抗体医薬です。CGRPは片頭痛を引き起こす主な原因物質の1つであり、これを抑えることで片頭痛発作を起りにくくする効果があります。エムガルティの投与によって、片頭痛日数が減り、頓服薬を使う回数が減り、頭痛が続く時間が短縮するという効果が期待できます。副作用は注射部位の痛みが生じることがありますが重篤なものは稀とされています。この薬は総ての医療機関で使用できるわけではありませんが、当院はエムガルティを投与できる施設になっています。

患者さんの窓口負担額は患者さんによってそれぞれ変わるので、まずは脳神経外科あるいは神経内科外来でご相談ください。



【連載 no.27】 緩和ケア研修会開催

看護部・副部長 江口 由紀

7月10日（日）、当院で緩和ケア研修会を開催しました。

緩和ケア研修会は、がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師、緩和ケアに関わる医療従事者の方に基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで緩和ケアが診断の時から、適切に提供されることを目的とした研修会です。がん対策推進基本計画（平成30年3月閣議決定）では、「がん診療に携わる全ての医療従事者が、精神心理的・社会的苦痛にも対応できるよう、基本的な緩和ケアを実施できる体制を構築する。」ことを目標としており、がん診療連携拠点病院等においては、緩和ケア研修会を都道府県と協議の上、開催することが指定要件として規定されています。（日本緩和医療学会 緩和ケア継続教育プログラム PEACE PROJECT より引用）

当院では、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、対象を院内の医療従事者に限定しました。医師や看護師、薬剤師など12名が参加し、緩和ケアに関する基本的な知識や技術を学びました。学習者中心の参加型研修の特徴をもち、講義（がん性疼痛、呼吸困難、精神的苦痛など）だけでなく、グループワーク（事例検討、地域連携）、ロールプレイ（がんの告知など）と盛りだくさんの内容でした。すべてのプログラムを修了した医師には厚生労働省、コメディカルには大阪府より修了証が授与されます。以下、受講生の声です。「患者体験や医師体験を通して、これまでの自分の言動を振り返ることができた」や「多忙で多職種と事例検討をする時間がもてなかったが、共に考え共有することの大切さを改めて実感できた」、「思考のフル回転で疲れたが、貴重な学びであった」と前向きな意見が聞かれました。

大阪府がん診療拠点病院として、これからも引き続き緩和ケア研修会を開催し、地域におけるがん診療体制の質の向上に努めていきます。



R4年度の診療報酬の改定により、感染対策に関する診療報酬が大幅に改定されました。昨今の新型コロナウイルス感染症の流行もあり、今や感染対策は「やっていて当たり前」が求められる状況になってきました。

今回の診療報酬改定では従来の感染防止対策加算が感染対策向上加算に変わり、点数も大幅に増えました。また、加算要件により従来の感染防止対策加算1、感染防止対策加算2に加え感染防止対策加算3の取得が可能となりました。また、新たに外来感染対策向上加算が新設され、外来診療における感染対策にも診療報酬が取得できるよう変更されました。今回の診療報酬の改定では、感染対策における地域連携の強化が色濃く求められる内容となりました。感染対策向上加算を取得した医療機関同士が共同し、クラスターの対応や情報の共有や感染対策の相談、また感染に関するデータの集計などを行うことで、より地域の感染対策を充実させることが求められています。

当院では以前より感染対策向上加算1を取得しており、様々な医療機関と連携し感染対策の活動をしてきました。感染対策の地域連携という想像がつきにくいかもしれませんが、耐性菌や新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクなどが起こった際にその医療機関に介入、ラウンドなどを行い感染対策の検討や提案を行い、いち早く感染を終息させるためのサポートを行います。また、他にも日常的な感染対策に関する相談について対応しています。今回の改定を機会にさらに感染対策が地域に広まり、地域全体で耐性菌のアウトブレイクや新型コロナウイルス感染症の感染拡大回避など、効果的な感染対策につなげられるよう活動を進めていきます。

<<2022年度診療報酬 改定 >>

〈感染防止対策加算〉

感染防止対策加算 1 390点
感染防止対策加算 2 90点



〈感染対策向上加算〉

感染対策向上加算 1 710点
感染対策向上加算 2 175点
感染対策向上加算 3 75点

〈外来感染対策向上加算〉 6点 患者1人につき月1回
〈連携強化加算〉 3点 患者1人につき月1回
〈指導強化加算〉 3点 患者1人につき月1回
〈サーベイランス強化加算〉 1点 患者1人につき月1回

『地域のいろいろ』では、院内に関わらず地域の彩り(いろいろ)ある社会資源をお伝えしていきます。

■「在宅医療・介護連携相談支援室」をご存知ですか？

大阪市では、高齢者等が疾病を抱え、医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることが出来るよう、医療・介護の連携を促進・支援することを目的に、各区に専任の在宅医療・介護連携支援コーディネーターを配置しています。地域の中で、一緒に支える仲間として、ぜひお声かけ・ご相談ください。

※平野区在宅医療・介護連携相談支援室の横田さんにご出演頂いています。

■「介護老人保健施設」ってどんなところ？

東住吉区内にある3施設(東住吉すみれ苑・パークサイドなごみ・たちばな)に、介護老人保健施設について・自施設についてインタビューを行いました。同じ施設種別であってもそれぞれ特徴があります。

在宅支援施設としての「介護老人保健施設」、ぜひご活用ください。



2022 年度診療報酬改定では集中治療におけるメディエーター（対話推進者）の配置が求められました。重症患者初期支援充実体制加算は ICU や HCU に入院された患者様へ、早期からメディエーターが介入する体制を評価する加算です。重症患者初期支援は患者・家族の意思決定や不安に対し、当該部署に直接関係しない職員が介入します。過去 ICU・HCU に入院された患者様、ご家族から「メディエーターがいてくれて良かった」と言う意見が多く寄せられ 2022 年度体制化されました。患者・医療者間の問題解決のため、医療メディエーターの役割は重要です。メディエーターはあくまでも中立して対話を推進させます。訴訟問題だけではなく、患者・家族と医療者の信頼関係再構築に欠かせません。様々なトラブルや信頼関係の崩れは対話不足が主な要因です。患者・医療者間だけでなく、医療者間の対話推進もチーム医療には必要です。



【レジナビ Fair 2022】

7 月 3 日（日）レジナビ Fair2022 がインテックス大阪にて開催され、全国の約 200 病院と 1,000 人近い医学生が参加しました。

レジナビ Fair は、日本最大規模の合同説明会で、2 年ぶりの開催となりました。当院も研修医 1・2 年 8 名と共に出席しました。当日は、なんと 30 名もの学生がブースに足を運んでいただき、当院での研修の魅力や特徴などを一生懸命アピールしました。研修医から対面でしっかりお伝えすることができ、たくさんの医学生と交流することができました！



■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp
電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平 日 9：00～20：00
土曜日 9：00～17：00

地域医療連携センター長 大場 一輝